

平成 25 年度 第 1 回 宇治市子ども・子育て会議 会議録

< 日 時 > 平成 25 年 12 月 18 日 (水) 10:00 ~ 12:15

< 場 所 > うじ安心館 3 階ホール

< 出席者 > (委員)

青山委員、大西委員、岡本委員、金谷委員、河合委員、竹下委員、竹田委員、松村委員、山室委員、岡見委員、片岡委員、岸委員、塚本委員、藤森委員、弓指委員、伊藤委員、迫委員、松井(明)委員、安藤委員、松井(敏)委員、能塚委員

(事務局)

教育部 中谷教育部長、村田教育部次長兼教育総務課長、
山下教育改革推進室長兼教育指導課長、
富治林小中一貫教育課長、

健康福祉部 佐藤健康福祉部長、斉藤健康福祉部理事、
遠坂子育て支援室長兼こども福祉課長、高田保健推進課長、
金久保育課長、古川こども福祉課主幹、
山本こども福祉課主幹、北尾こども福祉課主幹、
三品こども福祉課子育て企画係長、
平山こども福祉課子育て企画係主任

(傍聴者) 3 人

< 会議内容 >

1. 開会

- ・事務局より、「宇治市審議会等の会議の公開に関する指針」に基づき、会議冒頭から傍聴を認めていることを報告

2. 委嘱状交付

- ・山本市長より委嘱状交付

3. 市長挨拶

【市 長】おはようございます。宇治市子ども・子育て会議の開会にあたりまして、ご挨拶申し上げます。委員の皆様におかれましては、宇治市子ども・子育て会議委員の就任をご快諾いただき、また、本日はお忙しい中にも関わりませず、会議にご出席をいただき、誠にありがとうございます。さて、昨年 8 月に、子ども・子育て支援法をはじめとする「子ども・子育て関連 3 法」が成立・公布され、早ければ平成 27 年度には「子ども・子育て支援新制度」が始まる

うとしております。この新制度におきましては、質の高い幼児期の学校教育、保育の総合的な提供や、地域の子ども・子育て支援の充実などを目的に、基礎自治体である市町村が実施主体となって、地域のニーズに基づき、取り組みを計画的に進めていくこととされております。本市では、これまで「宇治市児童育成計画」や「宇治市次世代育成支援対策行動計画」などに基づき、教育・福祉の両面から、総合的な子育て支援施策の充実に努めてまいりました。とりわけ、保育所の待機児童対策につきましては、関係各位のご協力をいただく中で、平成 25 年 4 月当初におきまして、待機児童ゼロを達成したところであり、子育て支援医療費支給制度につきましても、平成 25 年 9 月から、実質無料化の対象を小学校 3 年生まで拡大したところでございます。また、現在におきましても、「未来に夢と希望の持てるまちづくり」の実現に向け、(仮称)教育研究所の設置や保育所・幼稚園・小学校の連携強化の検討など、教育・子育てを総合的に支援する体制づくりにつきましても、重点施策として位置付け、それぞれ取り組みを進めているところでございます。こうした中「子ども・子育て支援新制度」に向けて、広く市民の皆様や関係者の皆様のご意見をいただきながら、本市の子ども・子育て支援施策を総合的に推進し、その内容をより一層充実したものにしていくため、このたび「宇治市子ども・子育て会議」を設置させていただいたところでございます。この会議では、今後策定を予定しております、「宇治市子ども・子育て支援事業計画」に向けてご意見をいただきますとともに、今後の宇治市の子ども・子育て支援のあり方につきましても、委員それぞれのお立場から、ご意見をいただきながら検討してまいりたいと考えております。会議を進めていただくにあたりまして、委員の皆様には大変ご苦勞をおかけいたしますが、「子育てに夢が広がる、ひとにやさしいまち宇治市」の実現に向けまして、活発なご議論をいただきますようお願い申し上げます。どうぞよろしくお願いいたします。

4. 委員紹介

- ・委員紹介及び挨拶
- ・欠席委員報告及び会議の成立確認
- ・事務局紹介
- ・配布資料確認

5. 議事

(1) 会議の運営について

会長及び副会長の選任について

- ・会長及び副会長の選出
推薦により、会長に安藤委員、副会長に松井(敏)委員が選出された。
- ・会長及び副会長より挨拶

【会長】ただいま会長にご指名いただきました京都文教短期大学の安藤と申します。国でも子ども・子育て会議がスタートしており、今回、宇治市でもスタートをするということになったわけですが、当初の目的を達成するために、皆様のいろいろな立場からのご意見をいただき、実りあるものにしていきたいと思いますので、よろしく申し上げます。

【副会長】京都府宇治久世歯科医師会の松井です。子育ては終わっておりますが、孫もおりますので、健康面を中心に担当させていただきます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

会議の公開について

- ・資料3「宇治市子ども・子育て会議の公開に関する要項(案)」に基づいて、会議を進めていくことが決定された。

その他会議の運営について

- ・補足資料「宇治市子ども・子育て会議の運営について(案)」に基づいて、会議の開催日時の調整や会議録の作成、参考資料の取り扱いなどが確認された。

(2) 子ども・子育て支援新制度について

事務局より、資料4「子ども・子育て支援新制度」に基づき説明が行われた。(質疑なし)

(3) 宇治市の取組状況について

事務局より、資料5「宇治市の取り組み状況について」、資料6「宇治市子ども・子育て支援に関するニーズ調査結果<速報>」に基づき説明が行われた。

【事務局】(資料5、資料6の説明の後)補足説明ですが、現在、市が実施したニーズ調査についての分析を進めており、市として、保護者の意向等とともに、委員の皆さんのご意見を踏まえて、今後計画策定を行っていきます。例えば、資料6の8ページの、子育てについて楽しいと感じているかという質問に対して、「楽しい」という回答が44.6%となっておりますが、「とても不安、負担を感じる」が2.4%、「少し不安、負担を感じる」方が17.0%と、子育てをしていて不安だと感じている人があわせて約20%います。次の設問でも、気軽に相談できる人がいるかという質問に対して、93%が「いる」と答えていますが、6.5%が「いない」と答えています。こういった状況もしっかり踏まえて、計画を策定していかなばならないと考えております。

【委員】未就学児の保護者では、お子さんを幼稚園や保育所に通わせている方と通わせていない方では、まったくニーズが違うと思います。どこにも所属していない人の育児不安が多いと思います。ぜひ分析をしていく中で、そこを分けて、私たちにもわかるように提示していただきたいと思います。また、調査票を出していない方もいらっしゃるので、アンケート方式ではない、聞き取り調査も必要だと思います。宇治市で子育て支援に関わっている一部の人がこの会議には集まっていないと思いますので、子育て支援に関わっている方たちに対しての聞き取り調査を行っていく必要があると思います。今回の報告によると、現場で関わっていて聞いている声と全く違う声があがってきていると思います。

【委員】学童保育の設問がありますが、宇治市では育成学級と呼んでいます。育成学級の保護者の方にもニーズ調査票がきていましたが、非常にわかりにくいという声がありました。宇治市では育成学級が聞きなれているが、違う名前が使われているためにわかりにくく、放課後児童クラブとは何かという問い合わせもありました。宇治市の調査として行うのであれば、放課

後児童クラブでなくてもいいのではという意見がありました。また、本当の現場の実情、本当にお母さんが必要とされている保育、育成学級でしてほしいこと、宇治市で一番問題となっていることが、この会議で話し合っただけで、前向きに検討していただければと思います。以前から出ている開所時間の延長の要望等がありますが、この調査結果と現場の声とは違うところが結構あります。本日、参考資料としてお配りしているアンケートを保護者会連合会で毎年行っています。本当の現場の声を拾い上げてもらえればと思います。

【事務局】幼稚園、保育所等の所属による分析（クロス集計）は、今後行っていく予定です。ニーズ調査の結果につきましては、まとまり次第、市民にも広く周知をしていくとともに、団体に対しても、結果をお送りすることで、意見の集約を事務局としても行っていく予定です。育成学級については、国が「放課後児童クラブ」という事業名で行っております。調査票での補足説明など工夫したつもりですが、今後の資料についても配慮をしていきます。

【委員】今回新たに宇治市でニーズ調査を行って、その結果が近隣の自治体との差があった場合、予算を出して、格差を補完するということもできるのでしょうか。

【事務局】子育てに関する保護者のニーズに対して、サービスを提供していくために、市として施設の整備をしていかなければならないかもしれませんし、新たな補助制度も必要になるかもしれませんので、国の予算や補助制度がどうなるのか市としても注視しているところです。それぞれの担当課としては、この機会に質が低下しないように、各部門において、子育て施策を充実させていくという姿勢で取り組むとともに、宇治市の財源の確保にも取り組んでいく予定です。

【委員】各自治体の格差があった場合に、より充実していくために、国の1兆円の予算が役に立てばと思います。

【委員】保護者会代表としての要望ですが、やはり保育所の保育料が高いイメージがあります。減額などを考えていただきたいと思います。

【委員】宇治市では、保育所や幼稚園には力を入れており、待機児童がゼロになっていますが、その子どもが小学校に上がった時に、育成学級に子どもを預けると思います。しかし育成学級は定員いっぱいのところもあります。保育所、幼稚園を充実させていくのであれば、次の受け皿としての育成学級にも力を入れていただきたいと思います。

【事務局】保育料の減免については、現在、宇治市独自に、国の基準額の25%の減額を行っておりますが、皆さまのご意見等も踏まえながら、保護者負担についても検討をしていく予定です。育成学級については、近年、経済状況による共働き世帯の増加や、女性が働き続けることのできる社会となってきたことなどにより、保育所を利用されていた方が、小学校において育成学級を利用されるのは当然だと思います。市では、子どもの安全を重視するということもあ

り、小学校の中で育成学級の運営をしていますので、開設時間等についても調整が必要です。平成 25 年から年始の開設日の拡大など取り組んではおりますが、育成学級に対するニーズは、今後さらに高くなっていくと感じておりますので、定員の拡大についても施設整備などの検討をしていきます。

【委員】資料にもありますが、「子ども・子育て支援新制度」の目的は、幼稚園も保育所も、地域に住んでいる子どもも、みんな同じように税金で、子どもを育てやすい環境にしていこうというものです。地域全体、社会全体で子どもをみていこうと、厚生労働省、文部科学省、内閣府とが関わって、少子化や高齢化に対応をしていこうとしています。子どもを産んでもらう環境にしていきたいということがあります。宇治市でどのようにしたらいいのか、要望が出ていましたが、私は、宇治が子どもにとっていい環境で、そんな宇治で子どもが育ってくれればいいと思っており、そのために、できることをやっていけばいいと思います。国の予算の 1 兆円のうち、どのくらい宇治市におりてくるかはわかりませんが、それをうまく使ってくれればと思います。宇治市も意見を出して、各市町村の意見を京都府が国にあげていくことが重要だと思います。新しい制度で、新しい発想で、こんな風にしてもらいたいといった意見をどんどん出していければと思います。3 歳の子どもが 20 歳になったときに宇治がどのようになっているのか、といった発想で意見を出していければいいと思います。足りないものをどうするかではないと思います。新制度の主な内容について、よく見て、これは何を指しているのかを、もう少し考えて、意見を出していければと思います。勉強をお互いにしていければ良いと思っています。

【会長】説明資料などで難しい文章も出てきますが、消費税が子ども・子育てにも使われるということであり、財源の動向をよく見ていかねばならないと思います。色々な意見をいただきありがとうございます。

6 . その他

【事務局】次回の会議開催日時については、多くの委員が出席できるように調整をさせていただきます。また、本日配付いたしました現在の計画の進捗状況については、次回報告予定としております。

7 . 閉会